

『韓日の歴史を正しく知るために韓国に来ました』

[世界日報 2005-05-11 20:15]



“隣国である韓国と日本は最近の災いのような事態を解かなければなりません。そういう訳で、過去に韓国を植民地化した日本側が韓国を訪問して歴史問題などを中心に問題を解決しなければならないと思います。”

独島事態のきっかけとなった島根県の中小企業である小松電機産業の小松昭夫(61 歳)社長は 11 日ソウルの江南ケーブル TV 事務室で行われたインタビューを通じて最近の韓日の葛藤を解いていく方向をこんなに提示した。

小松社長はまた日本内極右派の膨脹政策が周辺国家と摩擦をもたらしているのではないという質問に“これはむしろ歴史問題がいかに重要で深刻なことなのかを知らせたという点で大事な経験だと思う”と、“今の事態を引き起こした日本政治家らを選んだ日本国民が進み出て、日本政府と韓国、そして中国に平和のメッセージを伝達しなければならない”と明らかにした。

小松電機産業は 70 人の職員で年売り上げ 600 億ウォン規模の中小電機会社である。小松社長は職員 40 人余りと一緒に日韓の歴史を正しく学ぶために 10 日に 3 泊 4 日間の日程で韓国を訪問し、西大門刑務所と白凡記念館、安重根記念館など日本の韓国侵略歴史とかわる現場を見学している。

小松社長は “20 年前、ビジネスのため韓国を訪問した時、タクシーに乗ってから日本人だという理由で相乗りしたお客さんから大目玉を食った以後、日韓関係史に大きい関心を持つようになった”と、“以後、韓国の歴史に対して研究して来たし、今回にも新入社員研修を兼ね、日韓関係史を正しく理解するために訪問した”と語った。彼は天安の独立記念館に 1000 万ウォンを寄付し、北朝鮮にも 5000 万ウォンを寄付するなど支韓派として知られている。“今回の訪問では白凡記念館と安重根記念館が一番記憶に残ります。特に安重根

記念館で伊藤博文が明成皇后を殺害した罪をやらかしたことを見て驚きました。日本ではこんな事実を知っている一般人は少ないほうです。”

小松社長は “10 日に明成皇后を弑害した人の子孫が来韓して謝罪することを TV で見て嬉しく思った” と、“外交葛藤を起こしているアジア 3ヶ国の平和と関係改善のために政府はもちろん民間レベルの努力が必要だ” と明らかにした。

文・写真 林正賓記者

jblim@segye.com